

伝えよう、三計と半九の教え

そっけん

# 息軒だより



令和元年度 17号 (12・1月号)

発行 宮崎市安井息軒記念館  
管理 NPO 法人安井息軒顕彰会  
理事長 齋藤義輝 館長 中村富英  
〒889 - 1605

宮崎県宮崎市清武町加納甲 3378 - 1  
TEL0985-84-0234 Fax0985-84-2634

e-mail:[sokken.yasui@pic.bbq.jp](mailto:sokken.yasui@pic.bbq.jp)

<http://yasuisokken.qcweb.jp/>

読み取ると、記念館 HP  
がご覧になれます。

一日の計は朝 (あした) にあり

一年の計は春にあり

一生の計は少壮の時にあり



## 時の流れを遅くしてみませんか！

安井息軒旧宅改修工事もほぼ終わり、元の趣のある旧宅に改修されています。その旧宅の前に立ちじっと眺めていると、今から4~5年前に物議をかました「スマホやめますか、それとも信大生やめますか。」という言葉思い出しました。これは皆様もご存じのとおり平成27年度信州大学入学式学長あいさつのなかで言われた言葉です。大学のホームページで挨拶文を読めると実に深い内容でした。一部引用いたします。

…子どもの頃は時間がゆっくり過ぎていたと感じませんか。大人になると忙しさと時間が走馬灯のように速く過ぎていきます。ある脳科学者は「記憶が詳細なほど、その瞬間は長く感じられる。しかし、周りの世界が見慣れたものになってくると脳が取り込む情報量は少なくて済み、時間が速く過ぎ去っていくように感じられる。」と言っています。

自分の時間を有効に使うために、自分で時の流れを遅くする必要があります。そのために五つの方策が提案されています。

一.学び続けること、 二.新しい場所を訪ねること、 三.新しい人に会うこと、 四.新しいことを始めること、 五.感動を多くすること、

すなわちスマホの見慣れた世界にいると、脳の取り込み情報は低下し、時間が速く過ぎ去ってしまいます。… (引用)

という考えで「スマホやめますか。それとも信大生やめますか。」という言葉が出ています。それから4~5年しかたっていないが、今ではスマホなしでは生活できない時代になっています。スマホが必要かどうかは読者の皆様の判断に委ねるとして、

安井息軒旧宅は、最近ほとんど見られないかやぶき屋根で、周りは梅の木、イチョウの木などの緑豊かな自然に囲まれています。また、安井息軒記念館は息軒に関わる展示物や書物、文化財などでいっぱいです。展望室からは宮崎市内を一望できます。知的にものごとを考え、創造的な思考を育てる環境です。これまで、たくさんの方々のご尽力により、このような素晴らしい環境と宮崎市の偉人「安井息軒」先生を伝承してきました。忙しい毎日、時間が走馬灯のように過ぎ去ってしまっていますが、リニューアルした息軒旧宅、そして記念館においていただき、時の流れを遅くして脳に刺激を与えてみませんか。

(文責 中村)

※旧宅は年内に公開できる予定です。おたのしみに。



## 清武中学校職場体験 ～はたらく、ということ～

11月12日(火)～14日(木)の3日間、清武中学校の生徒さん2人が職場体験に来てくれました。団体対応や展示解説、資料作成、講座会場の設営など短い時間でしたが、楽しく一生懸命取り組んでくれました。この職場体験が、将来を考えるきっかけの1つになればいいと思います。夢は2人とも、中学校の教師だそうです。2人の明るくて素直で無邪気な笑顔、忘れません。



『読書余適』を美しい写真とともに  
～安井息軒記念館講座 11月16日(土)実施～  
今回は諸岩則俊氏をお招きして、息軒先生著『読書余適』の舞台となる東北地方を氏が実際にたどるといふ実地調査をもとに、息軒先生の見聞や考証について講話をいただきました。報道の仕事で培った粘り強い取材と撮影技術がこの講座をより深いものにし、本当に旅をしている気分になりました。昨年度に引き続き、氏の探求心……すばらしいです。



**10月** 延岡市福祉推進チームえがお  
新富町生涯学習あすなる学級  
宮崎市立池内小学校4年生  
宮崎市立住吉小学校5・6年生(出前授業)

**11月** 東高岡保育所  
OTOKON会  
宮崎市立大宮小学校4年生  
宮崎市立加納小学校4年生  
宮崎市立池内小学校6年生  
みやざき歩こう会  
宮崎市有田自治会  
佐土原鶴松館ガイドの会  
宮崎市立木花小学校4年生  
日置市苜口(おろくち)自治会  
正手老人クラブ 上加納区ひなたぼっこ

記念館に来てくれて、ありがとうございます。また、ぜひともお越しくださいね。



### 安井息軒記念館講座⑥



- 2月15日(土) 10:00～11:45
- 講師:長友 禎治 氏  
(日南市文化財担当専門官)
- 演題:明治期の清武と飢肥  
～安井小太郎とのかかわりを通して～
- 会場:安井息軒記念館 研修室

### お佐代さんを偲ぶ会



- 1月4日(土) 10:00～11:30
- 息軒先生の妻、お佐代さんを偲んで献花、呈茶や余興を行います。

### 呈茶



- 2月1日(土)～2月8日(土)  
13:00～15:00※受付順にご案内します。
- ※2月3日(月)は休館日に伴い、呈茶もお休みとします。ご了承ください。
- お茶室「香梅庵」で、無料でお茶のふるまいをします。



※お申し込み・お問い合わせはお気軽に安井息軒記念館までご連絡ください。電話・ファックス・メールでも構いません。

## 今後のイベント案内



### 清武町史セミナー(全4回)

- ①11月23日(土) ②12月21日(土)
- ③1月18日(土) ④2月22日(土)
- ※いずれも10:00～11:45
- 講師:松浦 祥雄 氏  
(『清武町史』執筆者の1人)
- 会場:安井息軒記念館 研修室



### 安井息軒梅まつり



- 日時:2月11日(火・祝)10:00～15:00
- ステージ、抽選会、クイズラリー、模擬店など、楽しい催し物がいっぱいです。ぜひ、お越しください! (^o^)/
- ※この日は、かるた大会の準決勝・決勝戦も実施します。

# もっと知りたい！息軒噺（ばなし）

## 志半ば伝馬町の牢に散った 悲運の志士 北有馬太郎

【其の4】

息軒からの士官先紹介をことごとく断り続け、貞太郎は奥富村（埼玉県狭山市）から飯岡村（千葉県成田市）へと移居します。

安政4年（1857）2月、貞太郎は、息軒宛てに書状を送ります。そこには、京から迎えた病身の父親の薬代や生活費などで、講師料だけでは日々の暮らしもままならない状況であることや、田中河内介の上府に際して十兩を送金する必要があるなど、金策が急務であるという現実と、一方で尊攘活動のため木曾福島に赴きたい思いとの間で葛藤を続ける貞太郎の姿がありました。

年が明けて、1月12日、貞太郎は息軒へ須磨子を預かってほしいと依頼します。その4か月後の5月14日、貞太郎は須磨子と乳飲み子の糸子連れて飯岡を発ち、再び奥富村を目指します。関東挙兵の夢を掲げ、その実現に向けて動き出した貞太郎でした。前年、父寛平を亡くし喪が明けるのを待っての旅立ちでしょう。

翌日から降り出した雨は、一日置いてさらに激しさを増し、そのなかを、幼子連れて道を急ぐ二人の姿がありました。宿につくと貞太郎は、結婚の媒酌を務めてくれた塩谷宕陰に書状を送り、出向いてきた宕陰に離縁の理由を説明し理解を求めます。しかし、親友息軒を思い翻意を求める宕陰には最後まで受け入れてはもらえませんでした。宿には、須磨子の弟棟蔵が来ており、須磨子は棟蔵に託され、息軒のもとへと帰って行きます。この時、須磨子の幸せを願ってのことだったのでしょうか、貞太郎は娘を引き取ります。幼子を手放した須磨子の悲嘆は想像に難くありませんが、聡明な彼女は最後に貞太郎とどんな言葉を交わしたのでしょうか。これが、二人の今生の別れとなりました。国事に奔走する決意を固めた貞太郎は、妻や恩師に類の及ぶことを恐れて離縁をしたと伝えられていますが、自身はその真意を一切明かしていません。師の恩を仇で返すような人間という誹りを敢えて受け止める覚悟を決めて、貞太郎は運命の地奥富村を目指して歩いてゆきます。（文責 長野）

### curator Colum

#### 新春企画展「令和のはじめは収藏品展」近日開催

～資料の収集・整理保管・調査研究・公開展示は、記念館の使命～

学芸員 小山のつぶやき  
コーナーです。

※curator(キュレーター)  
「学芸員」の英訳

博物館の運営や学芸員の業務については「博物館法」に明記されています。

博物館法第4条には、学芸員の設置（第3項）や学芸員の役割（第4項）について述べられています。第4項では「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」と規定されています。博物館の設置理念や収蔵資料をもとに、「その館らしい」運営や事業展開を考えたときに、専門的な立場から企画・立案・事業実践を推進するのが学芸員の役割とも言えます。さらに、学芸員は博物館の心臓部ともいえる収蔵庫の管理責任を持ち、そこに収蔵されている資料の主治医でもあり看護師でもあります。資料は公開に耐えられるよう日常の点検が欠かせませんが、学芸員が点検しなかったら、いったい誰が点検するのでしょうか。資料は当然、時代・素材・使用者・制作者・用途などが違いますので、資料の持つ背景から大きくかけ離れないよう、なるべく当時のままで保管・公開を心掛ける必要があります（経年劣化で復元・修復の困難な資料もありますが。）。そして、大切なのは来館者は資料を見ることを楽しみにしているのに、その気持ちを決して裏切ってはならないことです。本年度は、学芸員の役割と関連付けて、きよたけ歴史館時代から収集してきた資料を学芸員が厳選（？）して、収藏品展を実施します。どんな資料があるのだろうか……どうぞワクワクして、しばしお待ちください。

会期：令和2年1月18日（土）～3月8日（日） （汗）ただいま準備中です（汗）

## ●安井息軒顕彰自由作品・書道展の表彰式を行いました

10月6日(日)、応募総数700点を超える書道作品・自由研究作品を厳正に審査し、特選・金賞・銀賞・銅賞の各賞の表彰式を行いました。我が子の姿や作品を写真に収める保護者も多く、思い出深い1日になったのではないのでしょうか。来年もまた、たくさんの力作をお待ちしています。



## ●秋風に誘われて……。安井息軒ふるさとウォーク

10月13日(日)、台風の進路も心配しましたが絶好のウォーキング日和となりました。清武町域の飢肥街道に残るさまざまな史跡を歩いて探訪しましたが、普段気が付かないところに史跡があって発見も多かったです。歩行距離7km、歩数は10,000歩を超えて健康にもいいイベントでした。



## ●薩摩藩に息軒先生の弟子がいた！～安井息軒探訪バスツアー～

11月2日(土)、先生の足跡を訪ねようと鹿児島方面へ出かけました。午前中は先生が霧島温泉で意気投合した東良助関連にしぼり、龍門滝や龍門寺坂を見学。その後、加治木郷土館では島津義弘公関連の企画展を見学し、「東良助交游文翰」を特別に拝見。昼食をはさんで午後は尚古集成館へ。先生の弟子、中原猶介は集成館事業の中心人物で、薩摩切子の赤色の彩色を開発した化学者です。先生の思想の浸透力に改めて感服したバスツアーでした。



## ●安井息軒顕彰支援団体との意見交換会

11月8日(金)、本年度第2回目の安井息軒顕彰支援団体との意見交換会を実施しました。SNSでの発信を活発にしてもっと館をPRしていくとよいのでは、とか、出前授業をぜひ実施してほしいという意見をいただきました。毎回、貴重な意見をいただいて安井息軒顕彰会としても大変励みになります。顕彰事業を活性化すべく、私たちは今回の意見をしっかりと受け止めて前進していきます。

## ●令和元年度 清武町史セミナーが開講。

11月23日(土)、本年度最初の清武町史セミナーが開講しました。講師には元県立高校教諭の松浦祥雄氏をお招きし、激動の南北朝時代について解説いただきました。たくさんの人物が関わり、寝返りや謀反が繰り返される中に清武も巻き込まれていきます。

この日は参加者と松浦先生との「問答」が大変活発でした。先生の解説も分かりやすく丁寧で、この時代をもっと知りたいと思えるようなセミナーでした。



2月11日(火・祝)の梅まつりの  
バザー用品提供のお願い

お歳暮やお中元等、自宅で使用されていない日用品がありましたら、安井息軒記念館まで提供をお願いします。

## 会員募集

NPO法人 安井息軒顕彰会では令和元年度の会員を募集しております。

年会費

- 一般会員 2,000円
- 賛助会員 1,000円
- 学生会員 500円
- 団体会員 5,000円



各種お問い合わせ、会員の近況報告、情報提供などがございましたら事務局宛ご連絡ください。

## NPO法人 安井息軒顕彰会

連絡先 宮崎市安井息軒記念館  
〒889-1605 宮崎市清武町加納甲 3378-1  
FAX 0985-71-3005  
携帯 080-8589-0569 (安井息軒顕彰会 黒木)



### 安井息軒記念館

管理：NPO法人 安井息軒顕彰会  
理事長 齋藤 義輝  
事務局長 黒木 幸英

### 記念館職員

館長 中村 富英  
学芸員 小山 幸子  
職員 長野 智愛子  
職員 日高 弘子